

## 「JR東京駅に雄勝石絵壁画を飾る～震災被災児たちの挑戦～」事業

### 被災した子どもたちによる石絵が 復興の願いも込めて東京駅の壁面を飾る

東日本大震災の翌年9月。石巻市雄勝町の子どもたちが協力して描いた石絵がJR東京駅の壁面に飾られ、その除幕式が行われた。壊滅的な被害にあった東北の復興と希望を願い、震災を風化させないためのモニュメントとしての役割を担った作品である。

#### 必要な石絵と残った生徒数が 偶然にも108で一致

硯や建材に使われる雄勝石の産地として知られる宮城県石巻市雄勝町。ここにも東日本大震災による津波は大きな爪痕を残した。4300人の住民は1300人に減った。3年前、AJOSCはこの地区の子どもたちを対象にした石絵教室の開催に助成を行ったが、その際に作った2作品のうち1つは津波に流された。

石絵教室を主催した石絵教室実行委員会・委員長の菅井哲夫さんは、地元のためになにか出来ることがないかと思案していた矢先、3年前の石絵教室を指導した雄勝石作家の齋藤玄昌實さんから、子どもたちのためにもう一度石絵を作ろうという計画を持ちかけられた。齋藤さんも、雄勝町にあったアトリエが津波で流された被災

者である。

「幸いなことに、この地区の小中学生には学校で津波にあった子どもはいませんでしたので、ほっとしました。そこで地域復興を願い、もう一度子どもたちと一緒に、後世に残せるものを作れないかと考えたのです」と2人は話す。

地元で企業などを支援している小濱裕美さんと出会って、雄勝石復興プロジェクトを立ち上げるようになった。

「雄勝石というのはひとつの象徴であり、地域全体の復興を目的としています」と小濱さんは語る。

震災の年の6月にプロジェクトは動きだした。浮かんできた案は、東京駅に子どもたちが描いた石絵を飾るというものだった。2012年に完成した東京駅の新駅舎の屋根には雄勝石のスレートが使われている。またJR東日本は震災直後から復興に協力的でもあった。齋藤さんからの打診に対し、JR東日本から承諾の回答があり、齋藤さんはすぐに下絵の制作にとりかかった。東京駅に飾ることもあって、「富士山」が選ばれた。

石絵は20cm四方の雄勝石を張り合わせて作るが、必要なスレートは108枚と算出された。地域の太須小学校、雄勝小学校、船越小学校、大須中学校、雄勝中学校にそ



子どもたち一人ひとりが1枚のスレートを描きあげた

の当時残っていた生徒の数も偶然にも108名だった。「何かの啓示かなと思いました」と齋藤さん。

下絵を元に、子どもたちは翌年の1月から絵具で雄勝石に着色をした。校舎が流されて、別の学校に間借りしている学校もある。まだ寒いなかの作業で難航もしたが、「子どもたちがみな笑顔で楽しそうだったので、逆に救われました」と小濱さんは語っている。

#### 除幕と共に美しい富士山の絵が 浮かび上がった

着色が終わったスレートが集められ、齋藤さんらプロジェクトメンバーによって調整作業が行われたのが2月。5月には強度をあげるための「焼き付け塗装」が行われた。その後、石絵は東京駅に運ばれ、丸の内側地下の南口改札に設置された。団体集合エリアの横なので多くの人が目にする場所である。

そして9月29日。東京駅駅長や石巻市副市長などを来賓に迎えての除幕式が行われた。また、作業に携わった5つの学校から38名の児童生徒が招かれた。

生徒を代表して阿部亮輔君は次のようにあいさつを行った。

「町の誇りでもある雄勝石に私たちが描いた絵が東京駅に飾られるということは、復興に向けて一歩を踏み出し、元気になるという雄勝町を全国の皆さんに見てもらえることでもあると思っています」

生徒全員が除幕の紐をひくと、見事な富士山の絵が壁面に浮かび上がった。横は約25m、高さは約1.9m。雄勝石独特の質感のある黒地を背景にして、富士山が雄大な姿を見せている。空には旭日と無数のきらめく星々。旭日

#### 担当者より



復興への願いと  
力強さを  
具現化できました。

石絵教室実行委員会  
委員長  
菅井哲夫さん

AJOSCのご支援を始めとして、本当にたくさんの皆様にご協力をいただいて、復興の象徴となる作品が完成できました。子どもたちに代わって厚く御礼申し上げます。震災自体は不幸な体験ですが、その後の人々の助け合いは得難い経験です。子どもたちにもそれが伝わったと思います。

は勇気の光、星の一つひとつが、被災者たちの希望の光を表している。タイトルは「輝く」。下絵があったとはいえ、子どもたちが制作したとは思えないほどの出来栄だ。

「これでひと区切りはつきましたが、復興はまだまだこれからです。これからも地域のための活動を続けていきます」と齋藤さん。

現実を見れば、被災前に4300人いた雄勝町の住民は1300人ほどになっている。雄勝石の生産現場も壊れて再開されていない。それでも、この日参加した子どもたちの表情には暗さはなかった。雄勝町を含む被災地の輝く未来を祈りたい。



東京駅で行われた除幕式



除幕式を告知するチラシ

石絵展示場所  
JR東京駅地下1階 丸の内地下南口「団体待合所」